当地域のID-Linkについて

室蘭市医師会　理事
いくた内科クリニック　院長
生　田　茂　夫

現在コンピュータを利用して地域内の診療情報を共有すること（ICT）が重要視されてきています。当地域では平成21年に国からの補助金を得て中核病院（市立室蘭総合病院、日鋼記念病院、製鉄記念室蘭病院）のサーバー３台と診療所のデータをアップロードするサーバー１台が設置されました。当初は中核病院が情報開示施設、診療所が閲覧施設としてID-Linkがスタートしました。以後、３基幹病院の地域医療連携室の方のお骨折りによりスワネットという組織を形成し、活動を援助していただいております。

当地域は診療所から急性期病院へ患者紹介する際に札幌など他地域へ行くことはまれです。つまり、独立した医療圏として病診連携が行われています。そのため地域内の中核病院すべてに同時にサーバーが設置されたのは大きな意味がありました。診療所のかかりつけ医は総合病院での血液検査、画像診断等の検査結果や処方内容を見ることができるようになりました。そのため重複する検査や処方を避けることが可能になりました。かかりつけ医として患者さんの情報を総合的に把握することができるようになりました。また、慢性療養型の病院は急性期病院での患者情報を具体的に得ることができるようになり転院の待ち時間が短縮しました。

あらい内科医院では全国で初めて診療所の電子カルテから情報開示施設へデータを送ることができるようになりました。その結果、診療所の患者さんが総合病院に受診した際にデータを見てもらうことができるようになりました。診療所では以後開田医院、当院の２施設も開示施設に加わりました。

情報開示施設３施設、閲覧施設数件から始まったID-Linkですが、現在は西胆振医師会のエリアにも広がりました。情報開示施設が２施設（伊達日赤病院、洞爺協会病院）も加わり８施設となりました。閲覧施設は31となりました。患者登録数は8,085名、アクセス数は約617,264件となりました。

今後の問題点は当初の４台のサーバーが更新される時期が近づいてきたことです。その予算を各病院が負担することは困難であります。そのため市町村と協力してサーバーを更新しID-Linkを発展させていく必要があると考えています。

一開業医にとっての渡島医師会

渡島医師会　常任理事
丸山内科医院　院長
丸　山　　裕

私の開業は比較的遅く、50歳からスタートした。場所は七飯町で周囲を農地に囲まれている。遅かった春を取り戻そうと畑仕事にいそしむ私に、突然渡島医師会の活動を紹介する文を書けと言われ大変戸惑っている。とりあえず私が当医師会にどう世話になり、どう感じているかを記すことで、極めて主観的ではあるが当医師会の特徴を表そうと思う。

当地に来て感じたことの一つは医師会と地域の行政担当者、福祉関係者、保健師等との間に非常に良い関係が構築されてことである。これには長い歴史があるようで、例えば２年前に発展的に解消したが“渡島地域保健・医療・福祉連絡協議会”という集まりがあった。一時私も幹事をさせてもらったが多職種の人が集まって介護保険制度、病床削減問題、特定健診等を腹蔵なく話し合い、その上で道医師会に講師をお願いしていた。この会は医師会主導とはいえ20数年間も続いた。住民健康教室等を含め、息の長い取り組みがなされていることに意義と当医師会の性格が表れているように思う。

また渡島地区は交通網の不備もあり時間的に非常に広域である。地区は３大別され毎年各地でブロック会議が開かれている。地域を問わず、私たちは医療を続けるかぎりさまざまな困難に直面する。そして中心都市からの距離に比例しその困難も増大する。苦労している会員を孤立させないという強い意志は歴代会長の伝統なのだろうか、渡島医師会が一つにまとまり、他会からうらやましがられるゆえんである。

つい先日、私にも介護保険受給者証が送られてきた。50歳代は自分なりに在宅医療、在宅での看取りに取り組んできたが、60歳代になり看取り数も急に減ってきた。理由は沢山あるがやはり自分の年齢的な問題も否定できない。高齢者が住みなれた地域、自宅で最期を迎えるシステム作りと同じように、医療者が高齢になっても地域に貢献できるシステム作りも期待したい。